

生誕 150 年 池上秀畝

練馬区立美術館 24.03.16~04.21 会期中展示替えあり

「池上秀畝 (いけがみしゅうほ)」(1874~1944) は、本格的に絵を学ぶため当時まだ無名だった「荒木寛畝」の最初の門人・内弟子となり、3年連続で文展特選を受賞、帝展で無監査・審査員を務めるなど旧派を代表する画家として活躍をした。その知名度は限られたものに限られたが、屏風や建具に描かれた作品は屋敷や御殿を飾る装飾美術として認められていた。特に、画伯は徹底した写生に基づく描写に、新派の画家たちが取り組んだ空気感の表現なども取り入れ、旧派でも新派でもない伝統に固執しない日本画表現を見せている。

本展は生誕 150 年にあたり「高精細画人」作品に焦点を当てた展示である。



《桜花双鳩・秋草群鶉図》 1921年



《桃に青鸞図》 1928年



《四季花鳥図》 1918年



《羅浮仙》 1901年



《秋晴(秋色)》 1901年